

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



※ P5443 参照



※ P5444 参照

2020.10
No. 752
臨時号

目次

[巻頭言]

信頼して，議論せよ 総長 湊 長博… 5440

[大学の動き]

- 総長引継式ならびに山極総長および理事の退任式を開催 …… 5443
- 湊 長博 プロボスト 理事・副学長が第 27 代総長に就任 …… 5444

- 理事が発令される …… 5444
- 副学長が発令される …… 5445
- 副理事が発令される …… 5446
- 理事補が発令される …… 5447
- 経営協議会委員（学外委員）が発令される …… 5447
- 部局長の交替等 …… 5449



京都大学



巻頭言

信頼して、議論せよ

総長 湊 長博



このたび第27代の京都大学総長を仰せつかりました。折しも、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる社会の混迷のただ中で、120年余の伝統をもつ京都大学の舵取りの重責を担うことになり、身の引き締まる思いです。この困難な状況の中でも、本学の建学の精神と伝統を引き継ぎながら、未来への飛躍に向けて全力を尽くす所存です。

まず、私の経歴を簡単に紹介させていただきます。私は1975年に本学の医学部を卒業後、米国のアインシュタイン医科大学免疫学研究室に留学、3年間の研究生活を送りました。この留学事情については、以前「京大広報」(No.715, 2015.10)〈巻頭言〉「40年前の留学」に書きました。ここで、世界各国から集まった研究者たちとの切磋琢磨と自由闊達な議論の中で、当時未開の領域だった「がん免疫学」の研究を開始、結果的にこれがライフワークとなりました。さらに免疫学を真に理解するためにはその異常、つまり病気を知る必要があると考え、3年後に自治医科大学の免疫内科に赴任しました。免疫内科はさまざまな難病を対象とする診療科で、10年余りの臨床現場での毎日の悪戦苦闘が、私のその後の研究への考え方や姿勢に大きな影響を与えたと今では思っています。そして1992年、京都大学医学部に本格的な免疫学講座を立ち上げて欲しいという要請を受け、京都大学に帰りました。当時まだ免疫学の教科書も少なく、自らカリキュラムを作り学生に免疫学系統講義を行うとともに、他領域の研究者とも積極的に共同研究を始めました。最も長かったのが本庶 佑 特別教授との共同研究で、この成果は新しいがん免疫療法として実り、本庶特別教授のノーベル賞受賞にも繋がりました。世界中の多くのがん患者の救命に貢献できたという事実は、私に研究の喜びの新しい景色を見せてくれました。

さて、今後の京都大学の課題と方向性について、私の考えているところを述べたいと思います。京都大学の長い歴史と伝統を継承していくという大きな方向性は、公式ホームページに述べたとおりですが、ここでは特に、指定国立大学法人の指定にあたって、本学が提示した中期将来構想に従ってお話したいと思います。指定国立大学法人制度は、2017年4月国立大学法人法の改正により、「我が国の大学における教育研究水準の著しい向上とイノベーション創出を図るため、文部科学大臣が世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を指定国立大学法人として指定することができる制度」(文部科学省)として創設されました。本学では、当時プロボストであった私が総長の委嘱を受け、全学での徹底した議論と合意

巻頭言

のもとに、指定国立大学法人構想「京都大学の挑戦」をまとめ、同年、東京大学、東北大学とともに第1次の指定国立大学法人の指定を受けました。この構想は以下の4つの大きな柱からなっており、その具体化に向けての施策を推進しているところです。

自由で独創的な知の創造を支える柔軟な研究組織体制

本学の基本理念は、新たな知的価値の創出による社会への貢献であり、研究の独創性と多様性を尊ぶのは私たちの誇るべき学風です。本学がアジア諸国の大学の中でも最多のノーベル賞やフィールズ賞受賞者を輩出してきたのはその証の一つでしょう。独創性と多様性は表裏一体のものです。本学には現在、30を超える附置研究所や教育研究施設等があり、極めて多彩な領域で研究教育活動が展開されていますが、これらの特性はその先端性（カッティングエッジ）と機動性にあり、研究者の関心や時代の要請に対応して、自在の研究活動が展開されてきました。2016年に新たにできた教員の学系組織を基礎に、さらに柔軟でダイナミックな研究組織の形成により、これからも新領域の開拓が進められることを期待しています。同じく2016年には、高等研究院が設置されました。ここには本学の世界を代表する研究者を中核に、文部科学省が指定する2つの研究拠点（World Premier Institutes）が置かれ、国内外の多くの研究者による化学・生物・物理から倫理学にわたる新しい融合研究が展開されています。また医学領域では、iPS細胞研究所に加え、本年度新たに医学研究科にがん免疫総合研究センターが設置され、医学部附属病院に新設された臨床治験施設や統合バイオリソースと連動して、我が国の次世代先端医療開発を主導していくことが期待されています。

次世代を担う若手研究者の育成と若い頭脳の国際循環

国立大学法人化後本学では、40歳未満の若手教員の割合が急速に減少しており、極めて深刻に受け止めています。かつて外科医から弱冠28歳で基礎医学研究に転じ、がんとホルモンにかかる発見でノーベル賞を受賞したC.B.Hugginsは「32歳までの人間のイマジネーションは乾いた林のようで少しの炎で火が付くが、35歳を過ぎると林は水につかり独創的仕事をするには遅すぎる」と言っています。ここ2年間で、実質100名近い若手教員の重点配置を実施しましたが、充分というにはまだほど遠い状況です。さらに、若手教員の大半が過大な事務的雑事による研究時間の不足に悩んでおり、本学の将来の活力のため若手教員の増加とその研究環境の改善は急務だと考えます。もう一つの懸念は、海外からの留学生は着実に増加しているのに対し、本学学生の海外留学が非常に少ないことです。現在の教育システムに単位取得の管理をもってよしとする傾向がありはしないか—教員との闊達な意志疎通などによる学生の問題意識や知的好奇心の動機付けに、不十分な点があるのかもしれませんが。現代社会で、学生の国際環境へのExposureは極めて重要であり、学生教育における大きな課題として全学的に議論する必要があります。2年前からオンサイト・ラボラトリー構想に基づき、すでに諸部局から世界各地の研究機関に10の研究室ができていますし、ヨーロッパの主要大学との間で戦略的パートナーシップも締結されました。これらの国際連携を最大限活かし、少しでも多くの学生が海外での経験を積んでくれることを願っています。

新しい人文・社会科学の創出と社会への積極的な発信

本学の指定国立大学法人構想における人文・社会科学の創出と発信は、内閣府・文部科学省の評価委員会でも注目されたところですが、本年の国会では科学技術基本法の一部改正に

巻頭言

より、従来除外されていた「人文科学のみに係る科学技術」がその振興対象に加えられました。かつて京都学派の思想や学問が、我が国の人文・社会科学の中で大きなインパクトを与えたことは疑いありません。しかし、地球規模で広がる民族、宗教、体制間の抗争の激化と格差の拡大、AIやIoTの広汎な普及による人々の行動様式や価値観の変貌など激動する社会の中で、今日ほど新しい人文・社会科学による指針が求められている時代はないのではないかと思います。すでに学内では、人社未来発信ユニットを核とした新しいアジア人文学への模索、AI時代に対応した法体系の整備、ヨーロッパ諸国と連繋した文化経済学の教育推進など、新しい動きが始められています。これまで、独自の領域で深化を遂げてきた本学の人文・社会科学が、お互いの垣根を超え自然科学領域とも連携をはかりながら、新しい時代の人文・社会科学の姿を創出し、社会に強いメッセージを発信していくことを心から期待しています。

ボトムアップの議論に基づく実効的大学運営と財政基盤の強化

どのような大学改革であれ、その実行主体はあくまでも教育研究組織の現場であり、徹底した議論に基づくその合意なしには実効性は覚束ないでしょう。指定国立大学法人構想で、全学での議論を保証するためにプロボスト制と戦略調整会議を導入しました。これは、意志決定の場ではなく、トップダウンあるいはボトムアップによる全学的課題について、必要な情報を収集し、Factsに基づきオープンで徹底した全学的議論を行う場です。このシステムにはさらなる改善と洗練が必要でしょうが、大学が直面するさまざまな課題に迅速適切に対応していくために、効果的に運用されるべきだと思います。

第4期中期目標・中期計画期間における国立大学運営費交付金の状況はまだ不透明ですが、本学の財政における運営費交付金の割合は約30%強を占めるにすぎず、独自の財政基盤の強化が今後の大学運営の主要な課題であることは間違いありません。外部資金の主要な柱の一つは産学連携活動であり、私たちは本学の研究開発の強みと実績を背景に、責任ある形で産業界と大規模な包括的連繋活動を進める用意がありますし、そのための体制も整えてきました。大学傘下の子会社設立や大学発ベンチャーも着実に進んでいます。私たちの産学連携の基礎は、あくまでも独創的で強い研究力であり、健全な産学連携活動は私たちの研究力にも新しい活力を与えてくれるでしょうし、その成果は大学の財政基盤の形成にも大きく貢献するはずです。加えて、広く民間からの資金導入による基金形成も極めて重要です。かつて維新後の荒廃した京都で、北垣国道知事は、当時大阪にあった第三高等中学校を果敢に京都へ誘致し（これがなければ今の京都大学はなかったでしょう）、東京から若干23歳の田邊朔郎を主任技師として招き琵琶湖疎水の大事業と日本初の水力発電事業を完遂しました。北垣知事は、これらにかかる莫大な費用を、国からの補助金に頼らず京都市民からの浄財で調達しました。肝に銘ずべきだと思います。本学が目指すところを明確に示し、国内外の同窓会をはじめ広く民間からの賛意を得て支援をいただくため努力いたします。

来る2022年に、本学は創立125周年を迎えます。国立大学はこれから大きな変革の時代に入ると考えられますが、「信頼して、議論せよ」をモットーに、全学の教職員・学生が一体となってさらに活力のある大学を目指して進んでいくために力を尽くす所存です。

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

総長引継式ならびに山極総長および理事の退任式を開催

9月30日(水)、山極壽一 総長と湊 長博 次期総長が総長引継式を行いました。

続いて行った山極総長および理事の退任式では、教職員を代表して湊次期総長が謝辞を述べた後、山極総長および理事が退任挨拶を行いました。退任式の模様は、オンラインにて全学にも配信しました。

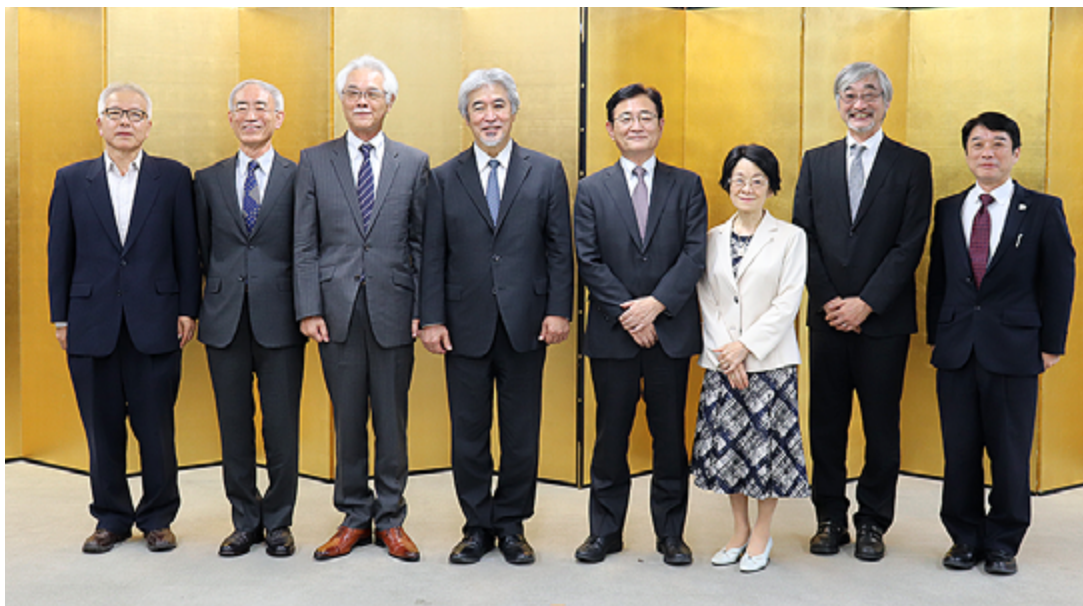
その後、山極総長は本部棟1階エレベーター前で、教職員からの大きな拍手の中、見送られました。



総長引継式を行う山極総長(左)と湊次期総長(右)



退任の挨拶を行う山極総長



集合写真

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

湊 長博 プロボスト 理事・副学長が第27代総長に就任

10月1日(木)、山極壽一 前総長の任期満了に伴い、湊長博 プロボスト 理事・副学長が本学第27代総長に就任しました。

総長就任式は、10月2日(金) 午前10時00分から本部棟大会議室で行いました。

就任式では、湊総長が教職員に対して就任挨拶を述べ、続いて稲垣恭子、北村隆行、時任宣博、平井明成、平島崇男、村上 章、村中孝史および非常勤の学外理事として久能祐子の8名の理事が紹介され、それぞれ挨拶を述べました。

就任式の模様は、オンラインにて全学にも配信しました。



就任式で挨拶を述べる湊総長



集合写真（久能理事はオンラインで就任式に参加）

[目次に戻る ↗](#)

理事が発令される

現理事の任期満了に伴い、10月1日付けで理事が任命されました。任期は令和4年9月30日まで。



男女共同参画・国際・広報・
渉外（基金・同窓会）担当
副学長
稲垣 恭子（新任）



研究倫理・研究公正・
研究規範担当
副学長
北村 隆行（新任）



国際渉外・海外同窓会担当
久能 祐子（再任）
（非常勤）

大学の
動き



研究・評価・産官学連携担当
副学長
時任 宣博（新任）



総務・労務・人事・
危機管理・施設担当
平井 明成（再任）



教育・情報・図書館担当
副学長
平島 崇男（新任）



財務・入試担当
副学長
村上 章（新任）



戦略調整・企画・学生・
環境安全保健担当
プロボスト
副学長
村中 孝史（新任）

[目次に戻る ↗](#)

副学長が発令される

現副学長の任期満了に伴い、10月1日付けで副学長が任命されました。任期は令和4年9月30日まで。



教育改革 (ELCAS・特色入試)
担当
有賀 哲也（再任）



教育推進（人文学）担当
宇佐美 文理（新任）



教育推進（国際）担当
江上 雅彦（新任）

大学の
動き



国際戦略担当
河野 泰之（再任）



法務・コンプライアンス担当
潮見 佳男（再任）



大学院横断教育（大学院横断教育プログラム推進センター）担当
杉野目 道紀（新任）



教育推進（医薬）担当
高倉 喜信（新任）



共通教育担当
宮川 恒（新任）



病院経営担当
宮本 享（新任）

[目次に戻る ↗](#)

副理事が発令される

現副理事の任期満了に伴い、10月1日付けで副理事が任命されました。任期は令和3年3月31日まで。



桂キャンパス担当
大嶋 正裕（再任）



宇治・遠隔地キャンパス担当
辻井 敬亘（新任）

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

理事補が発令される

【任期：令和2年10月1日～令和4年9月30日】

(補佐する理事)

※は副プロボスト

男女共同参画担当理事 国際担当理事	横山 美夏	法学系（大学院法学研究科）教授	(新任)
広報担当理事	佐藤 卓巳	教育学系（大学院教育学研究科）教授	(新任)
研究公正担当理事	蓮尾 昌裕	物理工学系（大学院工学研究科）教授	(新任)
研究担当理事 評価担当理事 産官学連携担当理事	上杉 志成	統合化学系（化学研究所）教授	(新任)
研究担当理事 評価担当理事 産官学連携担当理事	竹本 佳司	薬学系（大学院薬学研究科）教授	(新任)
研究担当理事 評価担当理事 産官学連携担当理事	田中 勝久	工業化学系（国際高等教育院）教授	(新任)
総務担当理事	北村 雅史	法学系（大学院法学研究科）教授	(再任)
教育担当理事	高田 彰二	生物科学系（大学院理学研究科）教授	(新任)
財務担当理事	若井 克俊	経済学系（大学院経済学研究科）教授	(新任)
入試担当理事	毛利 透	法学系（大学院公共政策連携研究部）教授	(新任)
戦略調整担当理事	出口 康夫※	文学系（大学院文学研究科）教授	(再任)
戦略調整担当理事	土井 真一※	法学系（大学院法学研究科）教授	(新任)
戦略調整担当理事	萩原 正敏※	基礎・社会医学系（大学院医学研究科）教授	(再任)
学生担当理事	佐藤 健司	応用生物学系（大学院農学研究科）教授	(再任)
学生担当理事	八木 知己	地球工学系（大学院工学研究科）教授	(再任)

[目次に戻る ↗](#)

経営協議会委員（学外委員）が発令される

現経営協議会委員（学外委員）の任期満了に伴い、10月1日付けで経営協議会委員（学外委員）が任命されました。任期は令和4年9月30日まで。



国立研究開発法人日本原子力
研究開発機構監事
天野 玲子（新任）



国立研究開発法人防災科学
技術研究所理事
安藤 慶明（新任）



京都市長
門川 大作（再任）

大学の
動き



日本たばこ産業株式会社社友
木村 宏（新任）



元ユネスコ日本政府代表部
特命全権大使
佐藤 禎一（新任）



大日本住友製薬株式会社
代表取締役会長
多田 正世（新任）



学校法人名城大学理事長
立花 貞司（新任）



公益財団法人豊田理化学
研究所所長
玉尾 皓平（新任）



星薬科大学学長
中西 友子（新任）



京都府知事
西脇 隆俊（再任）



総合研究大学院大学学長
長谷川 真理子（新任）



国立研究開発法人量子科学
技術研究開発機構理事長
平野 俊夫（新任）



株式会社三菱UFJ
フィナンシャル・グループ
取締役執行役会長
平野 信行（新任）



西日本電信電話株式会社
相談役
村尾 和俊（新任）

[目次に戻る](#)

大学
の
動き

部局長の交替等

(新任)

理学研究科長・理学部長

國府寛司 数学系(大学院理学研究科)教授が、平島崇男 理学研究科長・理学部長の後任として選出されました。任期は令和2年10月1日から令和3年3月31日まで。



農学研究科長・農学部長

澤山茂樹 応用生物学系(大学院農学研究科)教授が、村上章 農学研究科長・農学部長の後任として選出されました。任期は令和2年10月1日から令和4年3月31日まで。



研究連携基盤長

渡邊隆司 生存圏科学系(生存圏研究所)教授が、時任宣博 研究連携基盤長の後任として選出されました。任期は令和2年10月1日から令和4年3月31日まで。



高大接続・入試センター長

有賀哲也 純正化学系(大学院理学研究科)教授が、北野正雄 高大接続・入試センター長の後任として選出されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。



(再任)

医学研究科長・医学部長

岩井一宏 基礎・社会医学系(大学院医学研究科)教授が、医学研究科長・医学部長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和3年9月30日まで。

大学文書館長

伊藤孝夫 法学系(大学院法学研究科)教授が、大学文書館長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。

大学の
動き

国際高等教育院長

宮川 恒 農芸化学系（大学院農学研究科）教授が、国際高等教育院長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。

環境安全保健機構長

吉崎武尚 国際高等教育院特定教授が、環境安全保健機構長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和3年3月31日まで。

情報環境機構長

喜多 一 全学教員部（国際高等教育院）教授が、情報環境機構長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。

図書館機構長・附属図書館長

引原隆士 電気電子工学系（大学院工学研究科）教授が、図書館機構長・附属図書館長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。

産官学連携本部長

室田浩司 産官学連携本部特定職員が、産官学連携本部長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。

オープンイノベーション機構長

阿曾沼慎司 京都大学前理事が、オープンイノベーション機構長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。

国際戦略本部長

河野泰之 地域研究学系（東南アジア地域研究研究所）教授が、国際戦略本部長に再任されました。任期は令和2年10月1日から令和4年9月30日まで。

[目次に戻る ↗](#)

京大広報
No.752（臨時号）
令和2年10月31日発行

発行 京都大学総務部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
※ご意見・ご感想をお寄せください。
「京大広報」の既刊号は、次のURLでご覧いただけます。
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/>

京大力、新輝点。



京都大学は2022年に創立125周年を迎えます
URL : <https://125th.kyoto-u.ac.jp>